

項目	内容
名称	アガリクス、ヒメマツタケ、メマツタケ、カワリハラタケ、アガリクス・ブラゼイ [英]Agaricus [学名]Agaricus blazei Murill
概要	<p>アガリクスは、地面から生え、柄が長くて太く、香りが強いキノコ的一种である。</p> <p>別名としてアガリクス・ブラゼイ/ヒメマツタケがある。1965年にブラジルより移入されて以来、人工栽培されるようになったが、菌株、栽培条件や産地により、その特性や含有成分が異なる。</p> 
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <p>・子実体：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質(原材料)」に該当する。</p>
成分の特性・品質	

<p>主な成分・性質</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他のキノコに比べて粗タンパク質が多い。多糖類、ビタミンB1、B2、ナイアシン、B6、ビオチン、パントテン酸、葉酸、アミノ酸、ビタミンD、マグネシウム、カリウムなどを含むとの報告があるが (PMID:18604247)、成分含量は、菌株、栽培条件や産地によって異なる。 ・ヒメマツタケ抽出物や市販アガリクス製品に含まれるβ-グルカン量は製品により差がある (2005215401)。 ・ヒメマツタケ中のアガリチン含量は、乾燥重量で500~5,000 mg/kgとの報告がある (PMID:19680875)。 ・一部のアガリクス製品には、カドミウムの含有量が高いものが見られたが、自主的な基準等を持って対応がはかられている (104)。 ・アガリクス含有製品の品質は、製品により大きく異なるため、自主ガイドラインにより人での過剰摂取試験を義務付ける等が実施された製品もある (PMID:18408335)。
<p>分析法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アガリクスは他のキノコ製品・酵母製品と同様にβ-D-グルカンを含有している。β-D-グルカンの構造特性や分子量分布はキノコの種類により大きく異なり、その構造と活性の関連については一致した見解が得られていない。特異検出キットによるキノコ中β-グルカン総量が測定されている (2005215401)。アガリクス特有のβ-D-グルカンに関しては構造決定に関する報告がある (PMID:12204626)。 ・キノコ中のビタミンD前駆物質であるエルゴステロールがガスクロマトグラフ質量分析装置 (GC-MS) にて分析されている (PMID:9872771)。 ・アガリチンとその誘導体の分析方法として、HPLC-蛍光検出法 (PMID:16755074) ならびにLC-エレクトロスプレーイオン化タンデム質量分析法 (PMID:17071520) がある。
<p>有効性</p>	
<p>ヒト 循環器・呼吸器 での評価</p>	<p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽症高血圧者33名 (日本) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、アガリクス顆粒2 g×2回/日 (10名、平均49.3±10.7歳) またはアガリクスエキス50 mL×2回/日 (12名、平均47.4±9.0歳) を4週間摂取させたところ、収縮期血圧、拡張期血圧、脈拍、体重、BMI、生化学検査値に影響は認められなかった (2007007822)。
<p>消化系・肝臓</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>糖尿病・内分泌</p>	<p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2型糖尿病に1年以上罹患しており、グリクラジドおよびメトホルミンを6ヶ月以上服用している60名 (摂取群29名、平均57.0歳、中国) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、1,500 mg/日のアガリクス抽出物 (含有成分は不明) を12週間摂取させたところ、糖代謝マーカー (HOMA-IR) の低下が認められた。一方、糖代謝マーカー (空腹時血糖、HbA1c、インスリン、アディポネクチン) に影響は認められなかった (PMID:17309383)。
<p>生殖・泌尿器</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>脳・神経・感覚器</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>免疫・がん・炎症</p>	<p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な成人8名 (平均22.3±0.5歳、日本) を対象とした二重盲検クロスオーバープラセボ試験において、アガリクス (A.brasiliensis KA21) を3 g/日、7日間摂取させたところ、摂取前と比較してK562細胞に対するNK活性の増加が認められたが、NK細胞数に影響は認められなかった (PMID:18604247)。 ・健康な高齢女性57名 (試験群28名、平均70.4±6.3歳、ブラジル) を対象とした

二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、アガリクス乾燥抽出物300 mg×3回/日を60日間摂取させたところ、BMI、腹囲、血圧、血中サイトカインレベル (IL-6、IFN- γ 、TNF- α) に影響は認められなかった ([PMID:22010847](#))。

骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (2005215401) 東京都立衛生研究所研究年報. 2002;53:165-8.
[\(PMID:12204626\) Carbohydr Res. 2002 Sep 3;337\(15\):1417-21.](#)
[\(PMID:9872771\) Appl Environ Microbiol. 1999 Jan;65\(1\):138-42.](#)
(104) 「担子菌類中の有害物質の評価に関する研究」(平成16年度厚生労働科学研究報告書)
[\(PMID:15833380\) Food Chem Toxicol. 2005 Jul;43\(7\):1047-53.](#)
[\(PMID:17105737\) Jpn J Clin Oncol. 2006 Dec;36\(12\):808-10.](#)
(2005013083) 老年消化器病. 2004;16(2):101-7.
(2004276900) 皮膚病診療. 2004;26(8):967-70.
(2004252918) Minophagen Med Rev. 2004;49(3):176-8.
(2004149979) 肝臓. 2004;45(2):96-108.
(2004125341) 日本胸部臨床. 2003;62(11):1027-31.
(2005001969) 肺癌. 2004;44(3):167-71.
[\(PMID:17309383\) J Altern Complement Med. 2007 Jan-Feb;13\(1\):97-102.](#)
(2006138431) プラクティス. 2006;23(1):89-92.
(2006113539) 臨床神経学. 2006;46(1):67.
(2006035857) 臨床皮膚科. 2005;59(10):1013-5.
(2006209905) 皮膚の科学. 2006;5(1):102.
[\(PMID:16755074\) Chem Pharm Bull \(Tokyo\). 2006 Jun;54\(6\):922-4.](#)
[\(PMID:17071520\) Food Addit Contam. 2006 Nov;23\(11\):1179-86.](#)
[\(PMID:7737599\) Food Chem Toxicol. 1995 Apr;33\(4\):257-64.](#)
[\(PMID:9276636\) Carcinogenesis. 1997 Aug;18\(8\):1603-8.](#)
[\(PMID:17707568\) Food Chem Toxicol. 2008 Jan;46\(1\):87-95.](#)
[\(PMID:9571772\) Biosci Biotechnol Biochem. 1998 Mar;62\(3\):434-7](#)
[\(PMID:18154438\) JARMAM 臨床微生物迅速診断研究会誌. 2007;18\(2\):103-7.](#)
[\(PMID:18353517\) Food Chem Toxicol. 2008 Jun;46\(6\):1949-59.](#)
[\(PMID:19170155\) Phytother Res. 2009 Jul;23\(7\):906-12.](#)
[\(PMID:19879310\) Food Chem Toxicol. 2010 Jan;48\(1\):402-8.](#)
[\(PMID:20649730\) J Dermatol. 2010 Aug;37\(8\):773-5.](#)
[\(PMID:22010847\) Scand J Immunol. 2012 Mar;75\(3\):336-41.](#)
(2010342411) 糖尿病. 2010;53(8):647.
(2010017845) 西日本泌尿器科. 2009;71:144.
[\(PMID:19680875\) Food Addit Contam Part A Chem Anal Control Expo Risk Assess. 2009 Jan;26\(1\):82-93.](#)
[\(PMID:9625538\) Cancer Immunol Immunother. 1998 May;46\(3\):147-59.](#)
[\(PMID:12224654\) Biosci Biotechnol Biochem. 2002 Jul;66\(7\):1610-4.](#)
(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
(2014145301) Clinical Journal of Gastroenterology. 2013; 6(2): 139-44.
(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)
(2007007822) Health Sci. 2006;22(3):316-28.
(2012341380) J Environ Dermatol Cutan Allergol. 2012;6(3):277.
(2007343698) 日本腎臓学会誌. 2007;49(6):594.
[\(PMID:18604247\) Evid Based Complement Alternat Med. 2008 Jun;5\(2\):205-19.](#)
[\(PMID:18408335\) 日本薬理学雑誌. 2008 Apr;131\(4\):252-7.](#)
(2005052247) 日本癌治療学会誌. 2004;39(2):426.
(2018108228) 日本呼吸器学会誌. 2017;6(3):186-9.
(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)